

INSTRUCTION BOOK

PETRI

PETRI

PETRI

PETRI

10

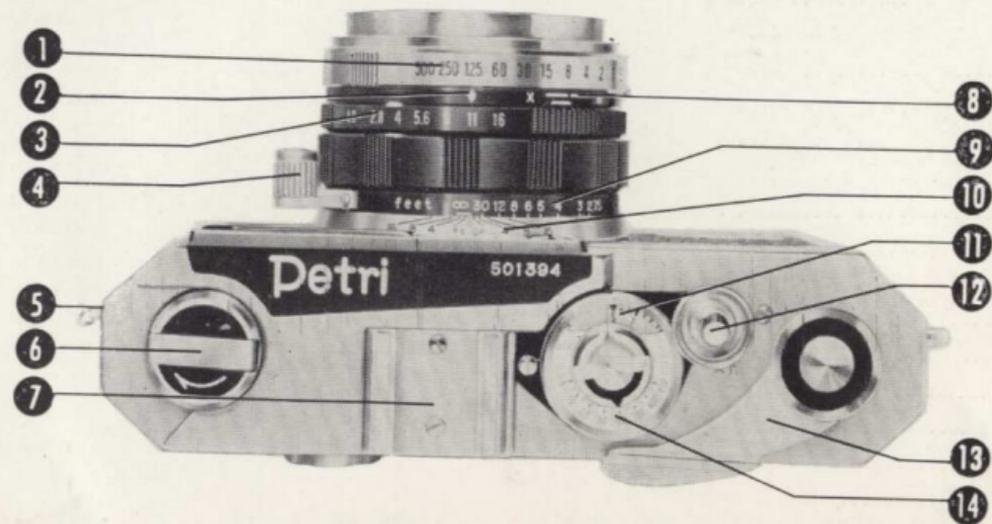
PETRI camera



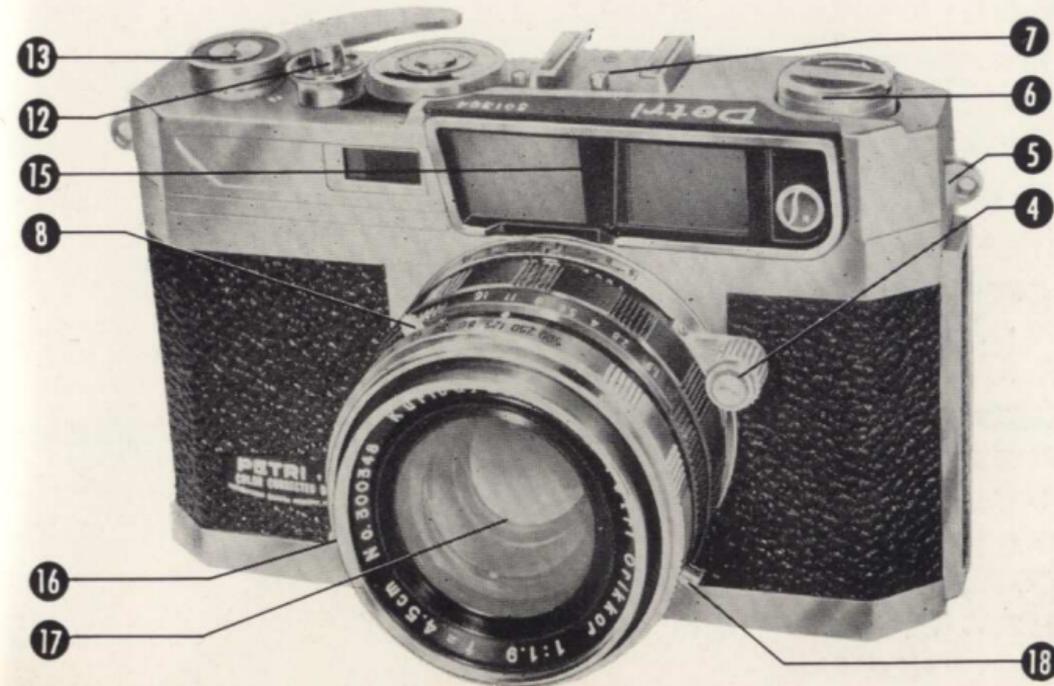
目次

● 各部名称	3~4
● オリコールレンズ	5
● コバルシャッター	6
● クリン・オ・マチックシステムの特長	7
● レバーによるフィルム巻上げとシャッターセット	8
● フィルムの入れ方	9
● ペトリ 1.9 の操作方法	10~12
● カメラの構え方	13
● 焦点調節とファインダーののぞき方	14
● シャッターの役目	15
● 絞りの役目	16
● フィルム巻戻しのご注意	17
● フィルムを取り出す方法	18
● シンクロ切換レバー	19
● シンクロ撮影についてのご注意	20
● シンクロ撮影	21
● 作例写真	22
● 被写界深度表の活用	23
● セルフタイマーの使い方	24
● 作例写真	25
● 撮影が終わったら	26
● ペトリ 1.9 のアクセサリー	27
● ペトリフィルターの種類と用途	28
● 取扱い・保存・手入れ	29
● 作例写真	30

各 部 名 称

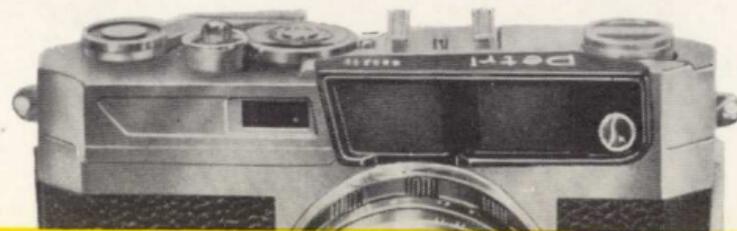


- ① シャッター速度ダイヤル
- ② シャッター速度及びレンズ
絞り線表示マーク
- ③ レンズ絞りリング
- ④ フォーカシングレバー
- ⑤ 吊環
- ⑥ フィルム巻戻レクラック
- ⑦ アクセサリーシュー
- ⑧ MX切換レバー
- ⑨ 距離目盛
- ⑩ 被写界深度目盛
- ⑪ フィルムカウンター表示盤
- ⑫ シャッターリリースボタン
- ⑬ フィルム巻上げレバー
- ⑭ ASA感度表示目盛

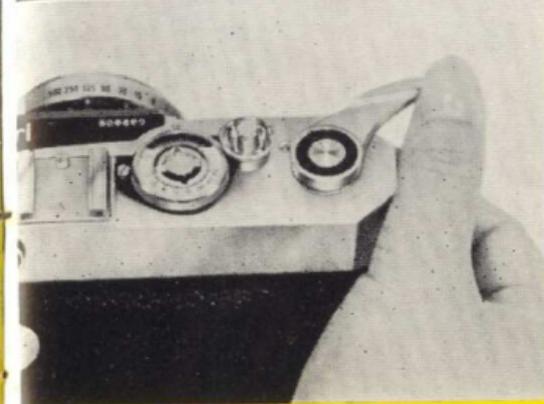


- ⑮ グリン・オ・マチック・
ファインダー
- ⑯ セルフタイマーレバー
- ⑰ ペトリオリコール F1.9
45mm レンズ
- ⑱ フラッシュシンクロー
ターミナル

グリーン オ マチックシステムの特長



- ★ 特殊クラウンガラス製のグリーン・フィルターを用いていますから、長時間のぞいていても、目が疲労せず、被写体に適当なコントラストをつけるので見やすいのが特長です。
- ★ ゴールデンフレーム式バララックス完全自動修正機構でレンズとファインダーの位置の差によって生じる機構的なズレ、つまりバララックスは、近距離になるほど大きくなりますが、これを自動的に修正する機構が採用されています。つまり、ファインダー視野内の明るいゴールデンフレーム（この枠の範囲が実際に写る）が近距離に焦点を合わせるのにつれて右下方向に自動的に移動していつも正しい視野を見ることが出来ます。
- ★ ワイドタイプのアイピースですので覗きやすく、目の位置が狂っていても視野が全く変化がなく、いつも正しい撮影画面をとらえることが出来ます。

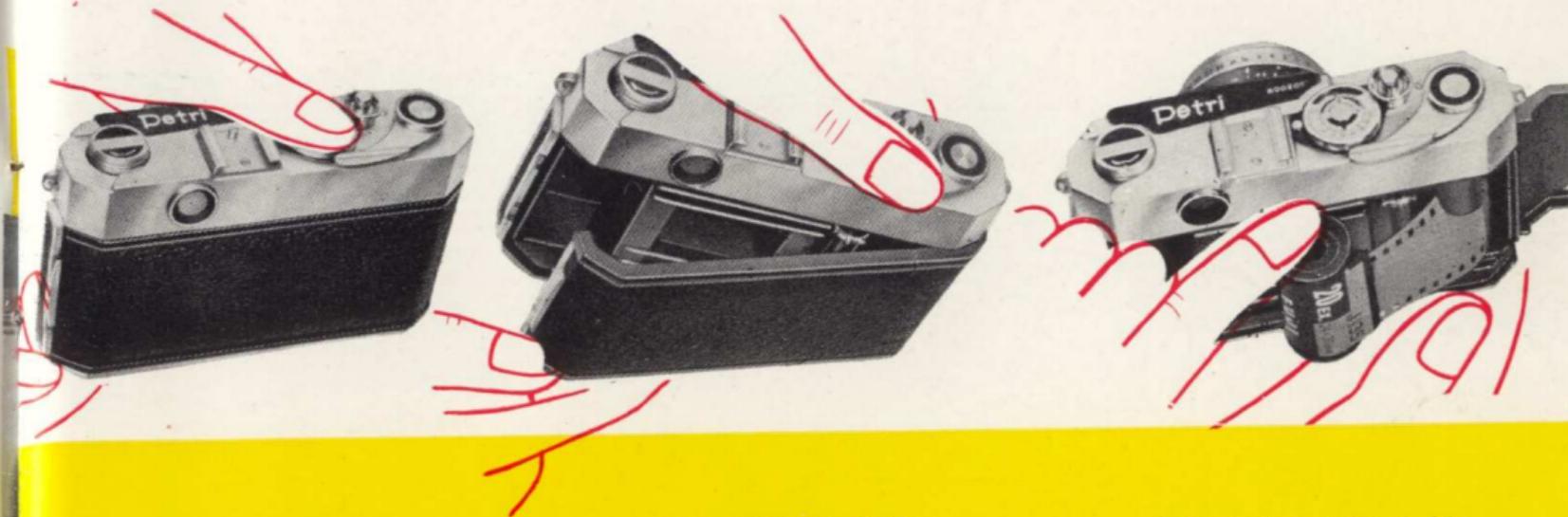


レバーによるフィルム巻上げとシャッターセット

- ★ 巻上げレバーに親指をかけ、止まるところ（180度）まで巻いて離すと、レバーは元の位置に戻ります。この一作動でフィルムが1コマ分巻上げられ、同時にシャッターがこれでセットされます。
 - ★ シャッターボタンを人差し指で押すと、シャッターが切れますが、シャッターを切らない限り、続けてレバーを巻上げることはできません。（空送り防止）また、一たんシャッターを切ったら、レバーを巻いてフィルムを巻上げない限り、再びシャッターを切ることはできません（二重露出防止）
 - ★ フィルムカウンターは巻上げレバーを操作するごとに一目盛ずつ進み、裏蓋をあけると自動的にS（スタート）マークに戻ります。（自動復元式）
- フィルム巻上げは撮影直前に………
シャッターをセットしたまま長時間放置しておくことは、シャッターのために良くありませんのでなるべく撮影直前に巻上げて下さい。
シャッター速度の変更は………
フィルムを巻上げる前でも後でもかまいません。

フィルム装てんについてのご注意

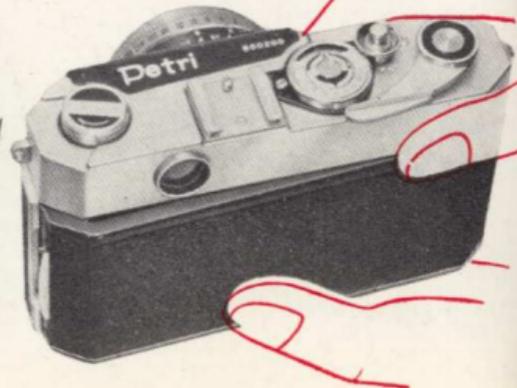
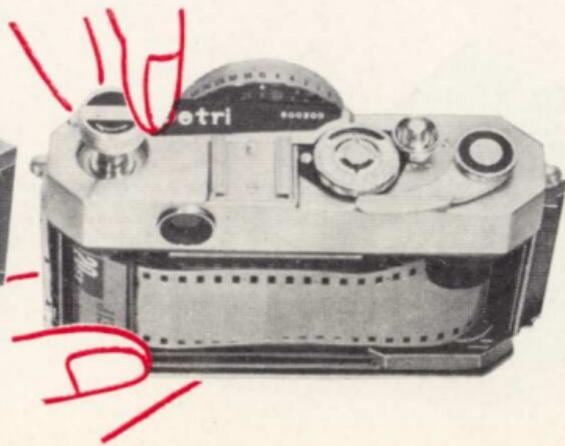
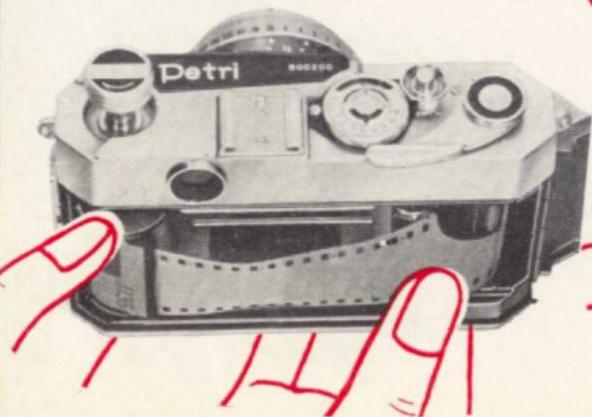
- ★ フィルムの装てんは必ず直射日光をさけて日陰で行うようにして下さい。直射光下ではフィルムに光の入ることがあります。
- ★ フィルム装てんのコツは、スプロケットの歯にフィルムのパーフォレーションを完全にかき合わせることにあります。これが不完全ですとパーフォレーションが破れて、フィルムを巻取れなくなります。
- ★ 裏蓋を閉じた後フィルムを巻上げますが、3回目の巻上げは撮影直前に行うようにしましょう。
- ★ フィルムが正しく巻上げられていれば巻戻しクランクは矢印の方向に回ります



①裏蓋開閉 (A)
開閉レバーを引きます。

②裏蓋開閉 (B)
裏蓋がスプリングの力
で自動的に開きます。

③フィルム装てん (A)
フィルムの先端を巻取
用スプールの溝に差込
みます。



④フィルム装てん(B)
 フィルムをリターン
 ノップ迄引のばしフィ
 ルムを装てんします。そ
 れからフィルム両端の
 コマが歯車に入る迄巻
 きます。

⑤フィルム装てん(C)
 写真のようにリターン
 ノップを下げてフィ
 ルムを装てんします。

⑥裏蓋開閉(C)
 裏蓋は写真のように押
 し込むだけで自動的に
 閉ります。また同時に
 フィルム指示表にSの
 マークが出ます。

⑦フィルム指示表
 巻上げレバーとボデー
 シャッターを交互に操
 作して、フィルム指示
 表がNo.1になるまで巻
 上げます。巻上げハン
 ドルは止る所まで完全
 に巻上げて下さい。

⑧露出設定(A)
 シャッタースピードダ
 イヤルを廻してシャッ
 タースピードを決めま
 す。

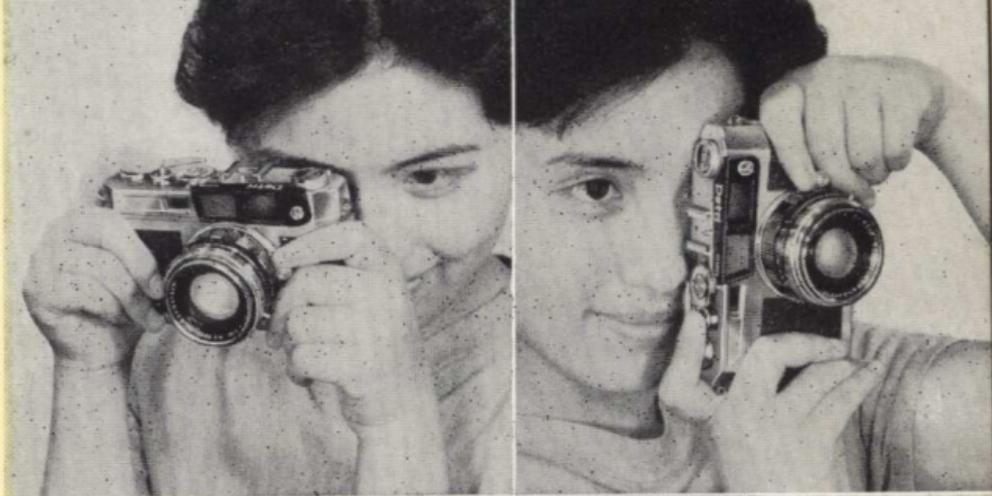
⑨露出設定(B)
 絞り調節ダイヤルを操
 作して露出を決めます。

シャッターを切るときは、カメラが動かないように安定した構え方をしましょう。カメラが少しでも動くと鮮明な写真は望めません。両手でしっかりカメラを持ち、カメラの背部を手、ひたいなどで顔に密着させます。シャッターボタンの圧力は200gで非常に軽いので、指先に力を入れる必要は全くありません。シャッターボタンは呼吸をとめて静かに押しましょう。また、立って撮影するときは両足を適当に開いて、体のバランスを取る事が大切です。塀や立木によりかかって写すのも、カメラを安定させる方法のひとつです。しかし手持ち撮影の限界は $\frac{1}{60}$ 秒までとお考え下さい。 $\frac{1}{60}$ 秒以下のスロースシャッターを用いるときは、なるべく三脚とレリーズをお使い下さい。レリーズはシャッターボタン外周にある指受皿の中にねじがありますからそこへライカ用のかぶせ式のケーブルレリーズをねじ込んで使用します。



ファインダーののぞき方

ファインダーをのぞきながら、フォーカシングレバーを動かしてファインダー視野中央の二重像を完全に合致させます。二重像の見える間は、焦点（ピント）が合っていませんが、これが合致したときは、焦点が完全に合ったことになります。のぞき窓は非常に大きいので、眼鏡をかけたままでも撮影ができます。



シャッター の 役 目

- ★ シャッターはフィルム面に達する光量を調節する役目をします。シャッター速度目盛は等間隔で1目盛ごとに2倍の速さになっています。
- ★ 露出はシャッター速度と絞りできまりますが、同じ露光でもこれらの組合せ方には、何通りかあります。例えば、 $F 11 \frac{1}{30}$ 秒と $F 4 \frac{1}{60}$ 秒とは同一露出です。
そこで露出をきめる際にどの速度をえらぶかが問題になります。被写体が動くものでは、それを写しとめるのに必要なシャッター速度をえらぶことになります。動体は動きの早いもの程、近距離になる程、速いシャッターをえらばなければなりません

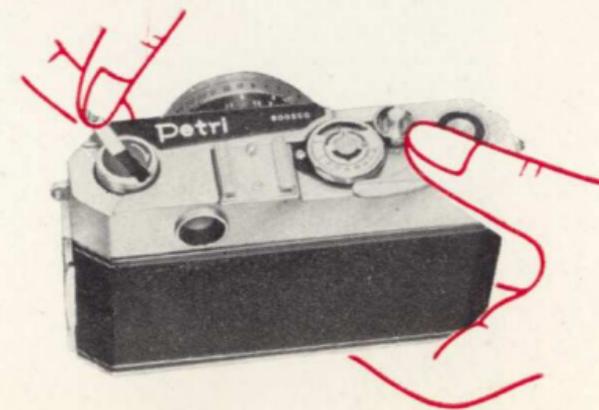


絞 り の 役 目

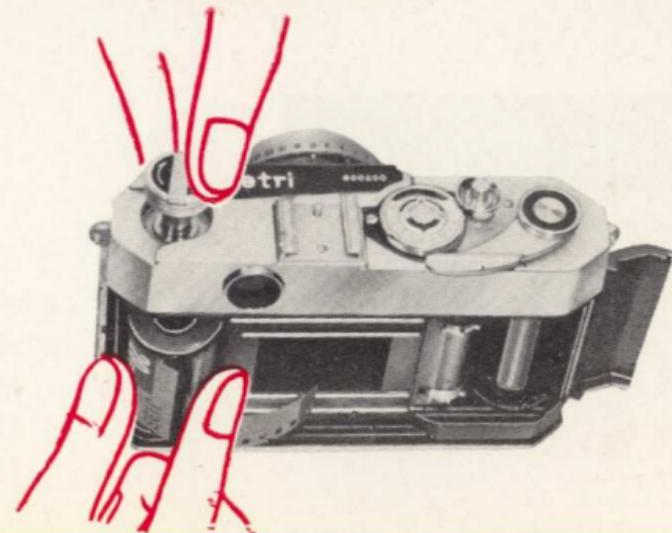
- ★ 絞りはシャッターと同様にフィルム面に達する光量を調節する役目をします。等間隔の絞り目盛も1目盛ごとに2倍半減の関係になっています
- ★ 絞りは光量の調節以外に、鮮明に写る範囲を深くしたり、浅くしたりする働きをします。ある1点に焦点を合わせたとき、その前後に鮮明に写る範囲（被写界深度）がありますがこれは絞りを小絞りにする程深く、大絞りにする程浅くなる性質があります。これを作画的に利用して、面白い効果を出すことも出来るのです。わざとバックをぼかして人物をひきたたせたいときには大絞りを使い、集合人物など全部を鮮明に写したいときには小絞りをを用いるといった使い方をします。

フィルムを取り出す方法

- ★ フィルムが完全に巻戻せたかどうかを確認するには、巻上げレバーを操作してみて、巻戻しクランクが回転しなければ、完全に巻戻せたと判断されます。
- ★ カメラからバトロネを取出す操作は必ず日陰で行って下さい。
- ★ 撮影ずみのフィルムのリーダー部分までをバトロネに全部巻込んでしまいますと、空のバトロネとまちがえることがあります。
- ★ 撮影の終わったフィルムは、なるべく早目に現像して下さい。



①巻戻しクランクを起して巻戻す
矢印の方向へ回して下さい。フィルムはバトロネに巻戻すことができます。



②フィルムを取出す
フィルムをバトロネに巻戻したら、裏蓋を開け、巻戻しクランクを引出して、バトロネを取出します。

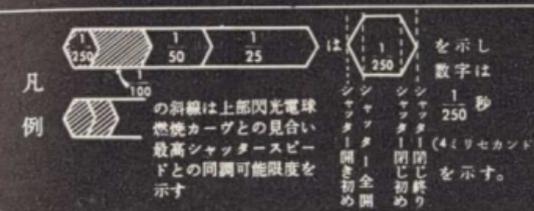
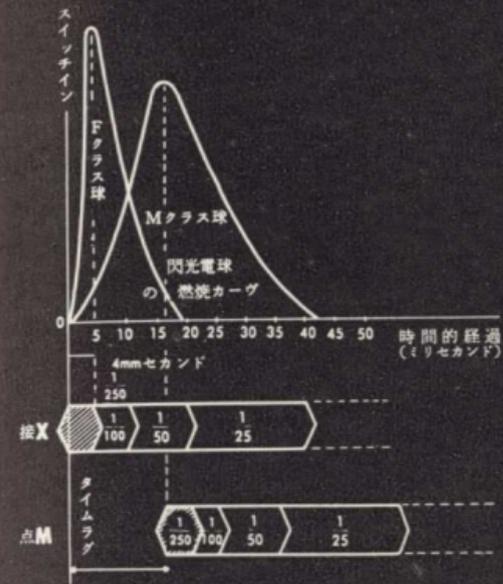
シロクロ切換レバー



シンクロコード（ドイツ式）をシャッターのシンクロ接点に差込むだけでもあらゆる閃光電球が全部のシャッタースピードにフルシンクロします。閃光電球はM級とF級の球を使用します。

- ★ X接点切換レバーをXの位置におき、シャッターを切ることによりシャッターの羽根が全開した時にシンクロします。 $\frac{1}{100}$ 秒以上の高速シャッターを使用した場合はストロボ専用になります（ストロボ使用全シャッタースピード同調）
- ★ M接点切換レバーをMの位置におき、シャッターを切ることによりシャッターの羽根が開く前にシンクロします（シャッター全開時迄のタイムラグは18%セカンド）
- ★ セルフタイマーを使用する時は接点をXの位置に置くことによりセルフタイマーを使用することが出来ます。ただしシンクロを必要とする場合はF級の球を使用して $\frac{1}{60}$ 秒以下のシャッターで切ってください。

シンクロ同調原理図表



シンクロ撮影についてのご注意

- ★ シンクロ撮影については往々にして故障を生じます。撮影が不馴れのため、失敗を起す事がありますから良く研究してから撮影を始める事にしましょう。
- ★ よく閃光電球が不発になることがあります。これはフラッシュガンの故障かコードの接続が不良の場合が多いようです。また、乾電池が古くなると電圧が低下するため、不発または発火しても同調しない原因となりますから気をつけましょう。

シンクロ 撮影

使用電球NO 純光量 ルーメン カセツト	級	絞 り				
		F 2.8	F 4	F 5.6	F 8	F 11
SF .000	F	Feet 20	Feet 18	Feet 13	Feet 10	Feet 7
No. 3 14.000	M	27	24	16	12	
No. 62 14.000	FP	18	15	10	7	

(ウエスト使用例)シャッター速度は1/50秒又は1/100秒使用、フィルムはコニパンS・ネオパンS
SSフィルム使用の場合は同一絞りで撮影距離を50%増加出来ます。

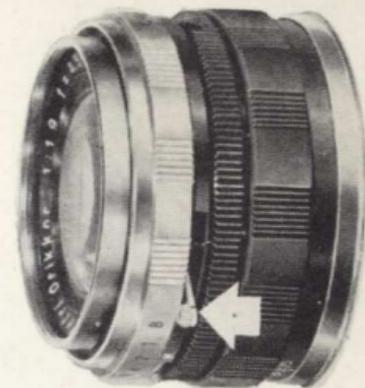
一般撮影の露出は絞りとシャッター速度を調節して決定しますが、シンクロ撮影は閃光電球から被写体までの距離と絞りにより決定します。 $\frac{1}{50}$ 秒～ $\frac{1}{60}$ 秒のように低速シャッターでも露出の変化はありません。しかし $\frac{1}{500}$ 秒以上の高速シャッターは閃光電球の光力の一部しか使えませんが、その光量により距離が絞りを加減しなければなりません。常に一定の閃光電球を使いその光量を有効に使うシャッターを決定しておけば絞りと距離は別表の通りになります。また被写体の明暗、室内の明暗によりいくらか異なりますが、自然光のほとんどない所では閃光電球の光だけを考えた別表の露出をご使用下さい。



PETRI 1.9

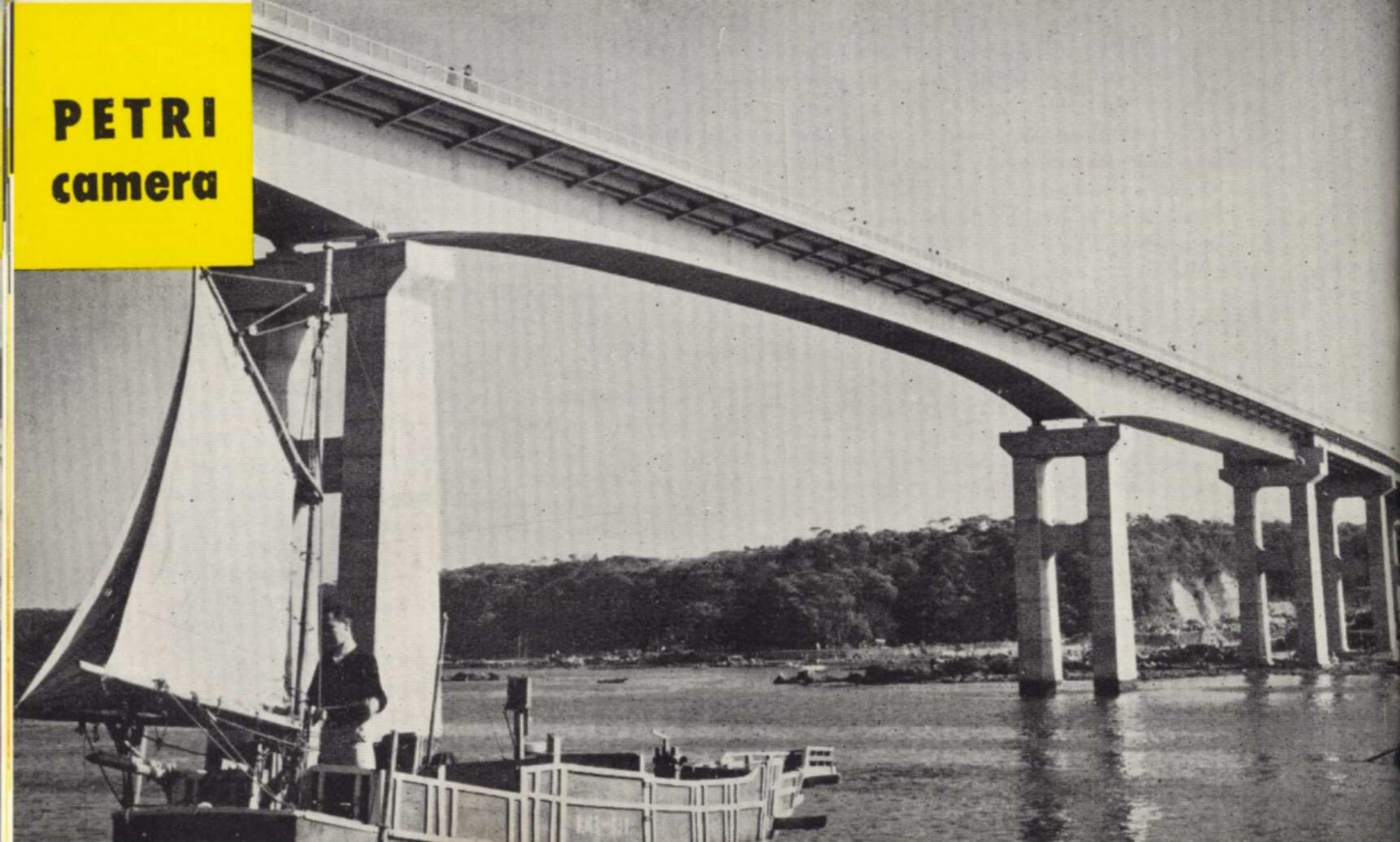
	1.9	2.8	4	5.6	8	11	16
2.75	2.83~2.67	2.87~2.64	2.92~2.59	3.00~2.54	3.13~2.45	3.30~2.36	3.60~2.22
3	3.10~2.91	3.15~2.87	3.22~2.82	3.31~2.75	3.46~2.65	3.67~2.54	4.10~2.37
4	4.17~3.84	4.26~3.77	4.38~3.68	4.56~3.56	4.86~3.40	5.27~3.24	6.25~2.95
5	5.28~4.76	5.42~4.64	5.62~4.50	5.91~4.33	6.41~4.09	7.16~3.84	9.03~3.46
6	6.66~5.38	6.72~5.43	7.10~5.22	7.36~5.07	8.60~4.62	10.03~4.24	15.10~3.74
8	9.3~6.94	9.34~7.00	10.00~6.71	10.61~6.42	13.40~5.72	18.00~5.15	42.00~4.43
12	15.10~10.02	15.20~10.10	17.30~9.20	19.03~8.27	30.80~7.45	75.40~6.54	∞~5.42
30	63.12~20.00	56.00~19.50	76.70~16.90	∞~15.61	∞~11.80	∞~9.61	∞~7.45
∞	∞~56.00	∞~55.40	∞~38.80	∞~27.70	∞~19.40	∞~14.10	∞~8.40

セルフタイマーの使い方



- ★ ベトリ1.9のシャッターにはセルフタイマーが内蔵されています。セルフコッキングレバーを止まるところまで押してセットし、シャッターボタンを押せばセルフタイマーが作動し約8秒後にシャッターが切れます。
- ★ セルフタイマーをセットするときの接点はMでもXでもかまいませんがシンクロ撮影時にセルフタイマーを用いるときは必ずX接点を用いて下さい。
- ★ セルフタイマーを途中までセットしてバルブセルフタイマーを用いることはさけて下さい
- ★ セルフタイマーのセットは、シャッターのセット前でも後でも構いません。

**PETRI
camera**



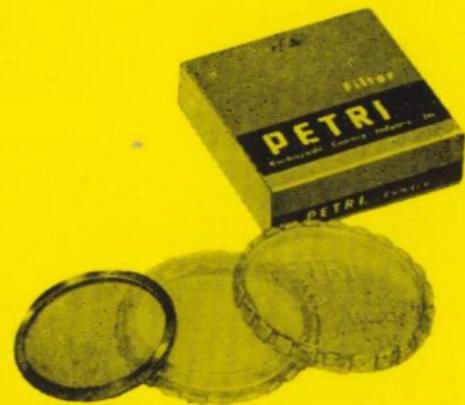
撮影が
終ったら

撮し終ったらフィルムはすぐ現像することが大切です。
よく撮影済のフィルムをポケットに入れて持って歩く人がいますが、これなどは絶対にさけて下さい。特に夏のように高湿高温に露出されたフィルムが合うと、カブリが現れますしフラットになる傾向があります。特に甚しい場合は線状のカブリや斑点があらわれたりバトロネにフィルムが貼り付くこともあります。

PETRI 1.9 のアクセサリ

ベトリ・フード

レンズの写角以外からの不要の光をカットし、ネガのコントラストを保つベトリフードは、ベトリ1.9の写角を十分に生かし、不要な光を極力さけるように設計されています。黒塗で丸型のスマートなベトリフードは、内面反射を完全に防止します。また、止めネジにより装着されますから安全です。軽合金製



ベトリ・フィルター

不要の波長をカットし、過透波長の効率の高いフィルターです。現在のパンクロフィルムは青に対して感じすぎる性質を持っていますが、これを正常な感色性にして、一層自然な感じに描写する整色フィルター、実感以上に調子を強調して、特殊な効果を生む強調フィルターなど、各種のフィルターが用意されています。金属枠付ネジ込み式

Kuribayashi Camera Industry, Inc.

ベトリフィルターの種類と用途

UVフィルター

紫外線をカットする無色のフィルターで、露出倍数がありませんから、レンズの保護のためにも常にご使用されることをおすすめします。また、カラー撮影にも良い効果があります。

Y1・Y2フィルター

紫外線、紫、青などの短波長をカットする黄色系フィルターで、青空の雲を美しく描写したり、青空バックの人物花などに使うと効果があります。Y2はY1より濃く、効果は強調されますが、表現意図によって使い分けるのが正しい使い方です。

YA3フィルター

紫外線、紫、青、緑の一部をカットするオレンジフィルターです。遠景、山岳、航空写真など、フラットになりがちな被写体に用いると、コントラストがついて効果的です。

R1フィルター

YA3フィルターより一層コントラストな効果のある赤色フィルターです。遠景、山岳、航空写真に用いる他、赤外線撮影用にも使われます。

カラー用フィルター

カラー用フィルターとして、W4（温調用）、C4（冷調用）、C8（フラッシュ用）、C12（フラッドランプ用）が用意されています。

取扱い 保存 手入れ

- ★ カメラはホコリと湿気が禁物です。特にレンズはカビが生えやすいので、なるべく乾燥した場所に保管して下さい。レンズにホコリがいたら、カメラを下向にしてレンズ刷子で軽く払っておきます。むりにこするとレンズにキズをつける結果になりますから気をつけましょう。
- ★ 誤ってレンズに指紋をつけたときは、脱脂綿をガーゼに包んだもので軽く拭いて下さい。放置しておくと指紋がとれなくなります。
- ★ 撮影時以外はなるべくレンズキャップをかぶせておきましょう。
- ★ ファインダーガラスについての指紋は乾いた布で軽く拭くか、それでも落ちない時はアルコールを少量含ませた脱脂綿で拭きとって下さい。
- ★ シャッターなど、カメラ内部の手入れは専門家に依頼することをおすすめします。



ベトリでは下記のサービスステーションに、当社技術員を常駐させてカメラについてのご相談や修理などを承っています。お気軽にご利用下さい。

東京都千代田区神田小川町2-2 TEL (291) 4986-0





PETRI

Kuribayashi Camera Industry, Inc.

Overseas Office :

**USA · EUROPE · CANADA · AUSTRALIA
SINGAPORE · TAIWAN · HONG KONG**

PRINTED IN JAPAN